

令和3年度 障がい者の就労に関する研修会

岩手県の取り組み 現状と課題、今後の方向性

2021年12月11日
水福連携アドバイザー
合同会社地域計画 熊谷智義

自己紹介

- * 熊谷 智義
- * 地域計画コンサルタント
- * 合同会社地域計画 代表
(株)邑計画事務所退職、2014年法人設立
- * 地方創生いわて事業協同組合 理事長

- * 北海道出身／1960年生／岩手県紫波町在住
- * 専門分野：地域計画・農村計画(博士(農学))
- * 所属学会：農村計画学会、東北農業経済学会
日本評価学会、日本社会福祉学会、岩手公衆衛生学会
- * 岩手県立農業大学校非常勤講師

2

概要

- I. 今年度、水産加工事業所、障がい者就労支援事業所を訪問し、それぞれから実情を聞き取りする中で、浮かび上がった、取り組みの現状や課題について、お伝えします。
 - II. これまで各地で取り組まれてきた「農福連携」と「水福連携」を比較し、今後の水福連携の可能性や方向性について、ご提案します。また、障がい者の就労支援に向けた視点について、過去の調査研究の結果から、若干、留意点について触れたいと思います。
- 補. 過去に、福祉と農業の連携のあり方を検討した結果について、情報提供します。

3

I. 取り組みの現状と課題

紹介する事例について

- 現在(令和3年度)または、これまで取り組んできた事例
- 障がい福祉サービス事業所側からみた、取り組み状況、今後に向けた課題など

4

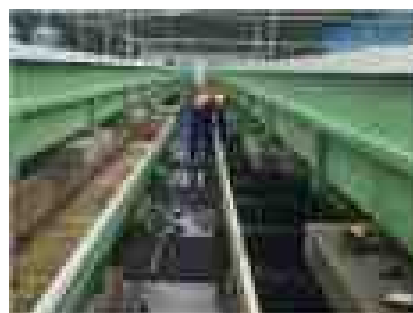
事例①

アワビの陸上養殖、水槽清掃作業

- ローテーションを組んで派遣(施設外就労)
 - 事業所では、生産(トマトほか)、加工(缶詰、レトルト加工)、販売(卸・小売)
 - 利用者の特性に合わせた作業の選択
- ▼
- 水槽清掃作業従事者～一般就労めざす

5

水槽清掃作業



6

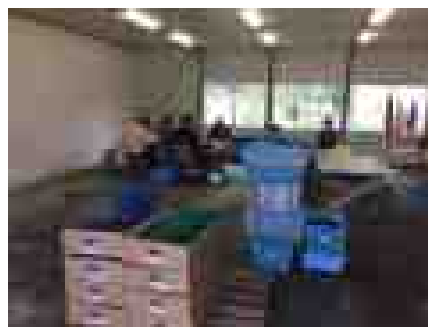
事例②

わかめの芯抜き作業(施設外就労)

- チームを組んで入れ替わりで従事(3回/週)
 - 箱折やラベル貼り、ポスティング物の作業、昆布を結ぶ作業、清掃、製菓(味噌ぱん等)
 - 利用者の特性に合わせた作業の選択
- ▼
- わかめ作業～一般就労(含他業務)めざす

7

わかめの芯抜き作業



8

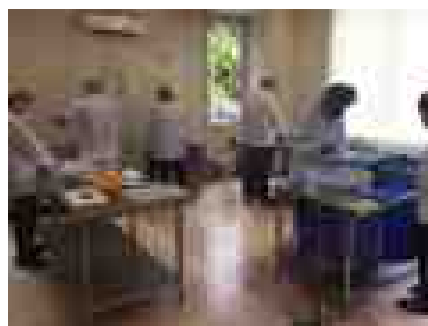
事例③

剣山わかめの加工作業(施設内)

- 加工(豆腐、クッキーほか)、店舗での販売、宅配、量販店での販売/建設業、電子部品、清掃等(施設外就労)
 - 作業の組み合わせ、選択の1つとして
- ▼
- 5～6名で作業分担、工賃アップめざす

9

剣山わかめの加工作業



10

事例④

わかめの芯抜き作業(施設外就労)

- ホップの作業、製造業検品補助、店舗や保育園の清掃、除草(施設外)
 - 組み合わせの1つとして、漁協の工場へ
- ▼
- コロナの影響で、現在、作業はストップ
 - 漁業者の作業に従事→相談機会を希望

11

事例⑤

ウニの作業について[相談]

- 現在引き受けている作業は、コネクターの加工、布の切断、農業、メール便の配達など
 - 他の水産加工業者での施設外就労実施
- ▼
- 作業内容、速度などへの対応が困難と判断
今回は見送りに

12

傾向・特徴

■障がい福祉サービス事業所

- 知的、精神、事業所による構成の違い
チームでの対応、個人差の配慮
- 多様な作業の取組みと選択
工賃アップ、一般就労の目標設定
- 施設内、施設外の選択
設備の有無、衛生管理面を考慮

13

課題

■障がい福祉サービス事業所

- 水産加工事業所のニーズ把握
どのような作業をして欲しいか

■水産加工事業所

- 障がい福祉サービス事業所の実態把握
どのような作業ができるのか



情報の共有、相互理解、試験的な取組

14

II. 農福連携と水福連携

- 農福連携モデルからみた岩手県における水福連携の現状
- 水福連携の今後の可能性

15

II-1. 農福連携モデル

- ①雇用型: 農業法人等における一般就労
- ②事業所内型: 障害福祉サービス事業所が自己所有する農地や借りた農地で農業を行う
- ③作業受委託型: 障害福祉サービス事業所が作業を受託(施設外就労)
- ④企業等民間雇用型: 障がい者を本社または特例子会社を設立して雇用(2.2%)し、農業を行う

16

II-2. 水福連携(岩手県の現状)

- ①雇用型: 漁業経営体や水産加工業における一般就労
→△(パート雇用一部あり)
- ②事業所内型: 障害福祉サービス事業所が海面漁業・養殖業、水産加工事業を行う→△(水産加工)
- ③作業受委託型: 障害福祉サービス事業所が、漁業や水産加工の作業を受託→○(水産加工)
- ④企業等民間雇用型: 障がい者を本社または特例子会社を設立して雇用し、漁業または水産加工を行う→?

17

II-3. 今後の可能性

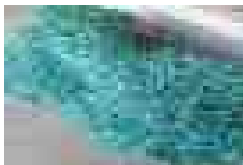
- ③作業受委託型: 障害福祉サービス事業所が、漁業や水産加工の作業を受託→○(水産加工) **漁業なし**

- * 水産加工: 関係者の情報共有、相互理解
- * 漁業: 現場のニーズ把握と作業の切り出し、工程の再構築、環境の整備・準備
(参考: 三重県 志摩市社会福祉協議会の実践)

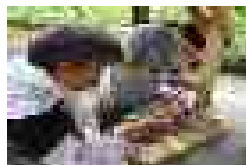
18

志摩市社会福祉協議会の実践例

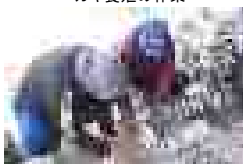
網の修繕作業



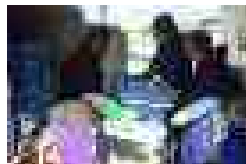
カキ養殖籠修繕作業



カキ養殖の作業



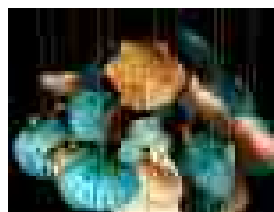
鮮魚販売(店舗・移動販売)



19

聞き取り調査より

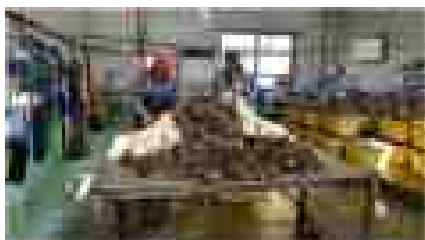
- ホタテのミミつり(稚貝にキリで穴を空けてテグスを通す作業)。その他、袋づめ、箱詰め、氷詰め等人手が足りない作業。



20

県関係者の声①

- カキ砕き、付着物除去など。



21

県関係者の声②

- 養殖用幹縄、浮玉の掃除と修理など。



22

補. 福祉と農業の連携のあり方の検討

障害福祉サービス就労系事業所における地域農業との連携に向けて、岩手県内N地域における取り組み事例の分析を通して、今後の福祉と農業の連携のあり方、方向性を検討。

現状と課題から、「作業請負型」「農産加工型」「地域づくり型」(3段階)を提案。

23

農業分野の就労、雇用の目的

就労継続支援B型事業所を利用する障がい者の工賃引き上げに向けて、



地域の基幹産業である農業分野における障がい者の農業作業請負等に取り組み、



障がい者の自立支援をめざす

24

農作業請負の取り組み

・農家ニーズの把握(主な意見)

- ①利用者に対する心配
 - どんな作業ができるか
 - どのように仕事を教えればよいか
 - どんな人が来るのか
- ②依頼時の心配
 - 毎日の作業の確保と繁忙時の対応
 - 作業への報酬
- ③農家の抱えている問題点
 - 高齢化、後継者対策
 - 採算ラインに合わせた規模の確保
 - 作業量に見合った人手の確保

25

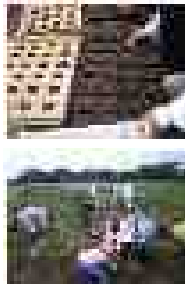
作業体験～農作業請負

- ・ **体験実習**(利用者、職員/トマトの定植など)
- ↓
- ・ 地域生活支援センターに連携窓口設置
- ↓
- ・ **請負作業契約の締結**・・・請負作業開始
 - ・ 作業後、**情報交換会**でコミュニケーション

26

農作業請負の拡がり(例)

- ・ **農家Kさん**
 - 育苗ポットへの土入れ
 - トマト紐吊し～紐巻き付け
 - ハウレンソウ収穫 ほか
- ・ **新規就農Mさん**
 - じゃがいも種いも蒔き
 - はつか大根種蒔き
 - トマト苗ポット植え ほか
- ・ **農家Oさん**
 - ねぎ草取り ほか



27

取り組みの結果

- ・ 農業者からの信頼度が向上し、作業時間延長などの要望が出された。
- ・ 作業に従事した人々にとっては、働くことの大変さと楽しさを実感する機会となった。
- ・ 課題は、農繁期の人手不足への対応。農作業請負者を増やすことが求められている。

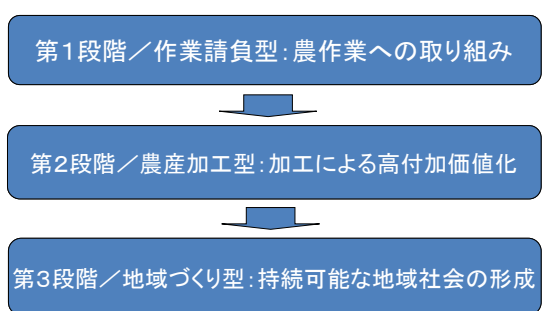
28

農業と福祉の親和性？

農業の方向		障がい者福祉事業所
①農畜産物のブランド化 競争力の高い産地の形成をめざす	<ul style="list-style-type: none"> * 大量生産 * 厳しい規格 * 効率化 * 低コスト化 	<ul style="list-style-type: none"> ○大量生産 △規格への対応 △効率化 ○低い人件費
②農業の6次産業化、高付加価値化 農産加工や販売の取り組みをめざす	<ul style="list-style-type: none"> * 大量～少量多品目生産 * 規格外の販売、加工 * 加工品の商品開発 * 労働力の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○少量～大量生産 ○加工の取組み △商品開発力 ○豊富な人材

29

福祉と農業の連携



30

(1) 第1段階
作業請負型: 農作業への取り組み

●概要

農家経営における高齢化や人手不足、コスト削減の課題に対応

●特徴

- ・単純な作業や熟練をあまり必要としない作業
- ・ある程度の技術は必要だが、パーツに分けることで多少の訓練で対応できる作業
- ・農業者からの技術指導を受けて実施

31

(2) 第2段階
農産加工型: 加工による高付加価値化

●概要

未利用資源の利活用、農産加工品の開発、高付加価値化の課題に対応

●特徴

- ・作業請負先から原材料(含規格外)を入手
- ・農家からの受託加工にも対応
- ・加工技術及び加工設備の整備
- ・自社製品を作る場合は販売ノウハウが必要

32

(3) 第3段階
地域づくり型: 持続可能な地域社会の形成

●概要

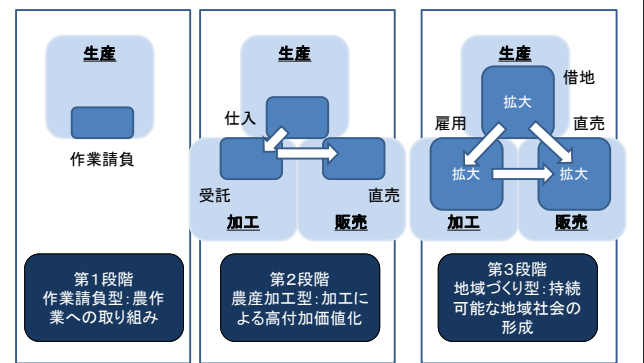
遊休農地活用の課題に対応、事業規模の拡大、複合化によって、地域雇用の場を創出

●特徴

- ・体系的な生産技術の習得、専門家からの支援
- ・加工技術の向上及び加工設備の拡充
- ・商品開発力(地域資源活用)、販売(営業)力
- ・農家レストランの展開

33

各段階の事業イメージ



34